

破天荒

教宣部

5061号

2019年
5月 9日

化学一般京滋地本
全竹中労働組合



オプト福利厚生補助金 協約を選択、オプト旅行に 参加しなければ繰越続ける

四月二四日、組合三役+会社メンバでオプトの福利厚生の打ち合わせをしました。オプトに組合員ができ協約が復活したので福利厚生の補助金について協約を適用すること。

オプトの福利厚生

オプトでは昨年十月、親睦会の総会が就業時間中行われ、会費を無料とし、福利厚生補助金を参加した者に対して旅行三万五千元、忘年会七千円を補助することが承認されたそうです。協約では正社員従業員の人数×三万円が福利厚生予算として計上され、旅行参加の有無に関わらず運営され残金は繰越となっております。

福利厚生運営委員会

二月の運営委員会で会社説明はオプト組合員の意向を尊重してオプト親睦会の旅行三万五千元+忘年会七千円か協約の三万円かどちらかを選択してもらうという

なぞなぞ

オプトに福利厚生行事は親睦会の旅行と忘年会しかないの、親睦会員としてオプト旅行三万五千元+オプト忘年会七千円の権利を

ものでした。

本人は協約を選択したので三万円が使えるようにして欲しいので具体的によいように使えるのか明らかにしてほしい…と要請しました。

行使するか、協約を適用してオプト旅行に参加したら協約の3万円に特別に五千円会社が出してやるうではないか+オプト忘年会は七千円会社が出てやるうではないか。ひとりだけで三万円使うのは福利厚生の趣旨から外れるので使用不可のことでした。協約を選択してもオプト旅行に参加しなければ二十年経っても繰越し続ける…ただし前年までの繰越金(百十五万)はオプト親睦会で使わせてもらう…

組合の主張

労働協約の福利厚生補助金は元々グループ三社で親睦のために使用する前提で協定(文書化)しており、現在の各社別旅行は福利厚生運営委員会で会社意見を取り入れて運用しているに過ぎないとしています。また一人当たり三万円は、電子のグループ旅行に合流して使用しても良いし、職場の飲み会などで使用しても良いような柔軟な運用を求めています。「文書化したものは守る」「協約は守る」と常々発言しているという会長さん、これってどうなん？

権力の腐敗

低歴代の天皇や、北条雅子、徳川家康などが愛読された書物にて『貞観精要』と言われる本があります。

この中にて繰り返し出て来るのが『権力の腐敗』というテーマです。どれほど優れた君主でも、三年も権力の座にいと、段々とおこり高ぶる心が出てきます。そして気付くと、耳の痛い話を直言する部下は遠ざけられ、取り巻きはイエスマンだけとなり、こうして

施政における腐敗が始まっていくのです。

これは、一代で会社を大きくしたオーナー社長の姿と重なって見えます。最初は社長が全てを仕切り、大胆な決断をしながら動かしてきますが、人が増え組織が大きくなるにつれて、自分が直接動くのではなく、組織を動かしていかないと、うまくいかない部分が出てきます。このとき、オーナー社長がとりがちな典型

的パターンは、自分の地位を脅かすナンバー2やナンバー3の部下を切り捨てることです。少しでも野心を見せた人は早いうちに芽を摘み、追い出してしまふのです。代わって取り立てられるのが、イエスマンです。こうなると都合の悪いことは隠され、オーナー社長の耳には心地のよい情報しか伝わらなくなります。

現場の疲弊や、顧客離れを指摘してくれる人がいな

くなり、ある日突然、会社がつぶれてしまうことも珍しくはありません。腐敗を防ぎ、組織を活性化させ、崩れないようにするためにどうするか。これは洋の東西を問わず、昔から現代にも通じる普遍的なテーマだと思えます。どこことなく会社が進んでいく方向に似てませんか？

